令和５年度　幼児教育研修（年齢別担任研修１歳児・第３回）
「子どもの発達と保育者の関わりについて」
日時：令和５年１２月６日（水）１５：００～１７：００
会場：足立区生涯学習センター
講師：相模女子大学　　准教授 金元 あゆみ 氏

子ども理解と遊びの環境

2回目の復習

ぼくもこのおもちゃ
であそびたい！
（行為の背景）

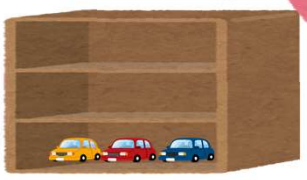
なんでいつも
友だちが遊んでる
おもちゃを
取っちゃうの
（行為）

行為よりも、**行為の背景を見ましょう。**
かみつきや物の取り合いなどは、満たされない気持ちを探り続けていくことが大事です。

車のおもちゃで遊びたかったんだ。でも、数が少なかったから、
お友達のおもちゃを取ってしまっていたんだ。
そうだ、車コーナーを見直そう!!**こんなのはどうかな？（提案）**

おや？何かしら
ぼく これであそぼう。

なるほど！
面白い！



子どもの遊びが変わった！

保育者のまなざしが変わると、子どもが見えてくる。
子どもが見えると、保育が変わる。

・子どもの「たのしい」「やりたい」**気持ちを叶える**環境
・子ども自身の力で危険回避できる力を育む環境
・子どもの**エネルギーが遊びに向かう**環境

両 立

安全面の配慮

あぶない！

子ども側の視点に立ち、悩み続ける、考え続ける、試行錯誤し続ける

＝

保育者の専門性

保育者の連携のあり方　～子ども一人一人と応答的に関わるために、チーム保育のよさを学ぶ～

チーム保育とは

複数の保育者が共同で、子ども集団の保育を行う状況。

『保育用語辞典第7版』ミネルヴァ書房P.111抜粋

チーム保育のよさとは

（子ども側）

- **個人差**（発達・興味・個性・リズム）**に応じた保育**
- 一人一人のきめ細やかな**応答的関わりによる愛着形成**（人への信頼感・自己肯定感の育ちにつながる）
- 活動に子どもを合わせる保育ではなく、**子ども主体の保育**が可能

（保育者側）

- 自分とは**異なる視点、関わり、価値観との出会い**（子どもへの柔軟な対応、複数の視点での子ども理解・保育理解）
- **保育を共有**できる喜び
- 互いにフォローし、支え合える

チーム保育のよさを活かすために・・・

子どもにも同僚にも、**相手を知りたいという気持ち**で関わることが大事

記録（保育マップ・ドキュメンテーション）は「語り合い」が生まれる媒体となる

子どもの心が動いたとき、「楽しかったね」で終わらせない

記録の意味・・・子どもの世界を**可視化（見える化）**し、子ども・職員・保護者などと**共有**する。

子どもが経験していることの意味を描き出す。

子どもが感じている世界を共に味わう。

記録を、保育室の壁に貼ったり、ファイルに綴じたり、いつでも手に取れるように、置き場所や置き方の工夫をしている園もある。

保育者のチームワークのために・・・

- **正解探しや指導、受け身ではなく、聞き合う・交わし合う関係**
- **経験や職位、担当（役割）に関わらず対等な関係**
- **自分とは異なる他者として、相手への尊敬・尊重が前提（同僚性）**
- **振り返りは、可視化し見返せる工夫**

明日の保育に向けて

- **子どもも保育者も「聴き合う」関係作りを大切に**
- **「聴き合う」ためには、「知りたい・分かりたい」という思いで様々な試行錯誤が必要**
- **相手を分かろうとする過程や、分かろうとしてくれる存在があることに意味がある**

人間関係は自分を映す鏡です

自分が言いづらいと思っていることは、相手もそう思っているかもという視点で

研修生の報告書より

子どもの願いを一人一人よく見ていると、何をしたいのかということが分かり、全部を叶えることが難しくても、少しでもそれに近いことができるようにすると、子どもたちが生き生きした姿に変わった。

保育者同士でもその人らしさを尊重し、その人を知りたいと思って関わることが大切で、信頼関係につながっていくということを学んだ。保育者同士でお互いを認め合ったり、知ろうとしたりして尊敬を忘れずにチームで保育していきたい。